

| | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----|----------|------|------|-------------------------|----|-----|---|--------------|----------|
| 授業科目 | 英語教科教育法Ⅱ | | | | | 実務家教員担当科目 | - | | | | |
| 単位 | 2 | 履修 | 選択 | 開講年次 | 3 | 開講時期 | 前期 | | | | |
| 担当教員 | 西原 真弓 | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | この授業では、英語教科教育法Ⅰでの学習を踏まえ、英語教育分野における全体的な展望が得られるよう最新の研究成果に触れながら、教壇に立った時に役立つ理論と実践および指導技術を学ぶことを目的とします。さまざまな外国語教授法の理論と特徴を学習した上で、日本における英語教育の歴史的変遷、授業形態の特徴や4技能の効果的な指導技術およびその統合に関して包括的な理解をします。また、情報機器及び教材の活用方法について学び、実際の英語指導に活かせる知識と技術を身につけます。さらに、小中高等学校における英語教育連携の在り方についても自身の考えを深めていきます。 | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | 対面授業 | | | | 授業方法 | 反転授業、ディスカッション、模擬授業 | | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | | | | | | | | | | | |
| 標準的レベル | 1. ICT 利用を含めた教科書・教材の利用方法について理解し説明できる。 2. 文法や語彙指導について、他技能の指導と絡めて理解し説明できる。 3. 授業での目標の設定の仕方や展開方法について理解し説明できる。 4. 小中連携について理解し説明できる。 5. 目標設定に応じた簡単な模擬授業を行うことができる。 | | | | | | | | | | |
| 理想的レベル | 1. ICT 利用を含めた教科書・教材の利用方法について自身で深く理解しようとし意見を述べることができる。 2. 文法や語彙指導について、他技能の指導と絡めて理解し自身でさらに調べ説明できる。 3. 授業での目標の設定の仕方や展開方法について理解し実践できる。 4. 小中連携について自身で深く理解しようとし意見を述べることができる。 5. 目標設定に応じた簡単な模擬授業を効果的に行うことができる。 | | | | | | | | | | |
| 評価方法・評価割合 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | | | 評価割合（数値） | | | 備考 | | | | | |
| 試験 | | | 0 | | | | | | | | |
| 小テスト | | | 0 | | | | | | | | |
| レポート | | | 50% | | | 学習内容の理解度を確認するための試験 | | | | | |
| 発表（口頭、プレゼンテーション） | | | 20% | | | 部分的な模擬授業 | | | | | |
| レポート外の提出物 | | | 30% | | | レポート発表&授業内ディスカッションへの貢献度 | | | | | |
| その他 | | | 0 | | | | | | | | |
| カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング | | | | | | | | | | | |
| DP1 | ○ | DP2 | - | DP3 | - | DP4 | ○ | DP5 | - | ナンバリング | EN34110J |
| 学習課題（予習・復習） | | | | | | | | | | 1 回の目安時間（時間） | |
| 学習内容を復習し、さらに翌週発表するための教育のキーワードから自分なりに調べて理解を深める。 指定された外国語指導法の動画を見て指導法に関する理解を深める。 教材を用いて部分的な活動内容を発表する。 | | | | | | | | | | 4 | |

| 授業計画 | |
|--------|---|
| 第 1 回 | 英語教科教育法Ⅱの授業ガイダンス 英語教科教育法Ⅰで学習したことを振り返り、今学期の目標を立て何をすべきか自分で考える。 |
| 第 2 回 | ICT と e ラーニング 語学教育における ICT の役割について理解し、効果的な利用の仕方について考える。 |
| 第 3 回 | 教科書と教材研究 教材研究の意義、教材の評価、教科書の分析について考察する。 |
| 第 4 回 | 文法の学習と指導 文法指導の理論的意義とコミュニケーション能力を育成するための文法指導の方法について理解する。 |
| 第 5 回 | 語彙と辞書検索指導 学習者がいかに語彙数を増やし、それを「使える」語彙にするかについて考察する。 効果的な文法指導についてレポート発表を行う。 |
| 第 6 回 | 授業運営・教育実習 教師と生徒が互いに学び、啓発しあう授業の運営について考察する。 学習指導案の書き方について学ぶ。 |
| 第 7 回 | 外国語教授法の日本の英語科授業への応用 外国語教授法の変遷を振り返りながら、日本の教育にどのように応用されているか考察する。 |
| 第 8 回 | 授業づくりの実践（1） 文法の導入や練習の方法について学び、効果的な導入と練習例を考える。（グループ活動） |
| 第 9 回 | 授業づくりの実践（2） 効果的な文法の導入と練習の方法について実践発表を行う。（グループ活動） |
| 第 10 回 | 授業づくりの実践（3） 教科書本文の内容理解の方法について学び、効果的な内容理解の導入と読解活動を考える。（グループ活動） |
| 第 11 回 | 授業づくりの実践（4） 効果的な教科書本文の内容理解の方法について実践発表を行う。（グループ活動） |
| 第 12 回 | 小学校外国語科の授業動画の視聴 主体的・対話的な深い学びとはどのような学びか、また、それを授業内で教員がどのようにサポートするか考察する。 |
| 第 13 回 | 中学校外国語科の授業動画の視聴 社会的話題について 4 技能を統合的に使いながら授業を組み立てるとどのような授業になるか考察する。 |
| 第 14 回 | 小中連携の在り方 小中連携を念頭に小 6 の授業と中 1 に授業を考えながら、小中連携には何が必要か考察する。 |

| | |
|-----------------------------------|---|
| 第 15 回 | <p>総括と学習内容の振り返り</p> <p>英語教科教育法Ⅲ、Ⅳで使用する教科書精査の方法を理解する</p> |
| テキスト | <p>『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』望月昭彦編著（2018）（大修館書店）</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（平成 29 年）（文部科学省）</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編』（平成 30 年）（文部科学省）</p> <p>（上記 3 冊はすべて英語教科教育法Ⅰで使用した教科書なので新たに購入は不要）</p> <p>中学校英語教科書『New Horizon English Course 3』（東京書籍）</p> <p>この 1 冊を新たに購入すること</p> |
| 参考図書・ 教材／データ ベース・ 雑誌等の紹介 | <p>『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』（平成 29 年）（文部科学省）</p> |
| 課題に対する フィード バックの方法 | <p>レポートはコメントをつけて後日返却する。</p> <p>部分模擬授業は終了後に口頭でコメントをする。</p> <p>レポート発表や授業内ディスカッションへの貢献度については授業内でコメントする。</p> |
| 学生へのメッセージ・ コメント | <ol style="list-style-type: none"> 1. 「英語で授業を行う」ために英語力強化を目指し、継続的に英単語力・英文法力・構文力を身につけるように努めること。（英検や TOEIC を積極的に受検すること） 2. 毎回、次時の講義で取り扱われる範囲の内容を事前に熟読の上、教科書を予習して来ること。 3. 英語教育に関する新聞記事や時事問題には日頃から敏感になり、情報収集に努めること。 4. 英語教師としての資質を磨き高めるため、日頃から自己研鑽に努め、ボランティア活動や英語指導には積極的に参加すること。 |

